

令和元年度 第1回
鴨川市スポーツを通じた地域振興推進委員会
東京オリンピック・パラリンピック
鴨川市対策推進本部 合同会議

日 時 令和元年6月24日(月)午後1時30分から

会 場 鴨川市文化体育館2階会議室

出席者 花山藤太郎・山下洋介・鈴木健史・島田誠一・渡辺淳一・清水宣雄・
江羅茂・菅原明善・大内洋・森谷宝子・佐藤翔太・北本綾子・瀬戸川賢二・
庄司朋代・飯塚和夫・内藤秀也・田原智之・石井一司・江川嘉孝

事務局 市長・佐久間建設経済部長・鈴木スポーツ振興課長・鈴木課長補佐・吉田係
長・西宮主査・スポーツを通じた地域振興庁内プロジェクトチーム・(一
社)ウェルネススポーツ鴨川 岡野ほか

1. 開 会

2. 委任状交付

3. 市長あいさつ

4. 委 員 紹 介

5. 議 事

- (1) 平成30年度オリパラ関連誘致状況報告について
- (2) 平成30年度オリパラ対策推進本部決算報告について
- (3) 鴨川版地域スポーツコミッションについて
- (4) 令和元年度鴨川版地域スポーツコミッションの事業について
- (5) 令和元年度東京オリパラ鴨川市対策推進本部予算について
- (6) その他

6. 意見交換

7. 閉 会

１．開　　会

（１３：３０）

- 司会　皆さん、こんにちは。ご案内をさせていただきました時間となりましたので、ただ今から、【令和元年度　第１回　鴨川市スポーツを通じた地域振興推進委員会及び東京オリンピック・パラリンピック鴨川市対策推進本部　合同会議】を開催させていただきます。私は、本日の進行を務めさせていただきます、鴨川市建設経済部スポーツ振興課の鈴木と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。

会議に先立ちまして、会議資料の確認と、この会の要旨等につきまして、ご説明をさせていただきます。本日の資料は、Ａ４の用紙で、「会議次第」、「会議資料」、また、事務手続上、「口座振込依頼書」を配付させていただいている方もおります。以上でございます。配付漏れはございませんか。

本日の会議ですが、ご案内のとおり、「鴨川市スポーツを通じた地域振興推進委員会」と、「東京オリンピック・パラリンピック鴨川市対策推進本部会議」の合同会議とさせていただきます。「鴨川市スポーツを通じた地域振興推進委員会」は、国の地方創生推進交付金事業として、総合運動施設を有する本市の特性を生かし、スポーツを通じて産業の活性化、交流の促進その他の地域振興を推進することを目的に、昨年度から来年度までの期限で設置しており、「スポーツを通じた地域振興基本計画」の策定やスポーツを生かした地域振興施策への様々なご意見やスポーツコミッションの組織化についてのご提言を頂戴したところです。また、東京オリンピック・パラリンピック鴨川市対策推進本部会議は、２０２０東京オリンピック・パラリンピック競技大会を全市を挙げて支援し、生涯スポーツの発展や観光振興、地域経済等の活性化及びユニバーサルなまちづくりの推進並びに市民生活の向上につなげ、スポーツ観光交流都市として発展することを目的とし、平成２６年度より設置しております。

ふたつの会議とも、その目的や委員構成、所掌事務が重なる部分があり、より幅広い議論や皆様のご負担の軽減の意味からも、この際、同時に実施をさせていただきたいと存じますので、ご理解を賜りたいと存じます。

また、本日の会議でございますが、附属機関等の会議の公開に関する実施要領により、公開で行うとされております。つきましては、本日の会議の傍聴についてお許しいただきますとともに、会議録を作成するため録音させていただきたいと存じます。

なお、会議録につきましては、個人情報等を除いた概要版を公開することとさせていただきます。宜しいでしょうか

（異議なしの声あり）

２．委嘱状交付

- 司会　続いて、次第の２になりますが、新たに「スポーツを通じた地域振興推進委員会」の委員になられます方に市長から、委嘱状の交付をさせていただきます。どうぞ、

自席にてお受け取りいただきたいと存じます。

(市長から新任委員へ委嘱状交付)

3 市長あいさつ

続きまして、次第の3になりますが、亀田市長からごあいさつを申し上げます。

(亀田市長 あいさつ)

4. 委員紹介

- 司会 続きまして、次第の4、委員の皆様のご紹介ですが、お時間の都合上、名簿をもって代えさせていただきます。なお、事務局側の職員の紹介を自己紹介にてさせていただきます。

5 . 議 件

- 司会 続きまして、次第の5の議件に入らせていただきたいと思います。以後の進行は、「スポーツを通じた地域振興推進委員会」の委員長をお願いしております、花山藤太郎委員に一括し、お願いしたいと存じますが、宜しいでしょうか？

(異議なしの声あり)

- 委員長 それでは、ただ今から議長を務めさせていただきますので、委員の皆様のご協力をお願いします。始めに、本日の会議録の確認をしていただく委員を決めさせていただきますと思いますが、その方法は、私から指名させていただくことで宜しいでしょうか。

(異議なしの声あり)

- 委員長 はい。ありがとうございます。それでは会議録の確認について、本日は、清水宣雄委員を指名させていただきたいと思います。次に議事に移ります。本日の議事につきましては、あらかじめお手元にお配りしてございます、会議次第に沿いまして、進めていただきたいと思いますのでご了承願います。

議件の(1)、平成30年度オリパラ関連誘致状況報告について、事務局の説明を求めます。

(事務局 説明)

- 委員長 ただ今の事務局からの説明につきまして、ご質問がございましたら、お願いしたいと思います。
- 庄司委員 ご説明ありがとうございました。資料のほうを今拝見しながらお話を伺っていたんですが、実際の誘致活動にあわせて調査・分析、今後の誘致における課題というのがございます。ここについてもご説明をいただいて、我々が実際検討するのはこの部分かなと思いますので、よろしくお願いします。
- 事務局 昨年度、今もそうなんですけれども、実際に海外チームの誘致を現場で担当しております私のほうから今のご質問についてご回答させていただきたいと思います。
10ページ、11ページの誘致課題というところをご指摘されたと思いますけれども、ここで誘致課題につきまして大きく3つに分けてまとめてあるんですけれども、まず総合運動施設につきましては、女子サッカーという点においてまとめておりますけれども、まず現在、芝は高麗芝という芝を使っておりますが、これはサッカーの国代表ともなりますと、常緑天然芝生が必要になるであろうと。ただし、6月の議会にその議案が上程されておりまして、可決されたということで、こちらは実現の方向で進んでおりますが、もう一つの問題点は、東京オリンピックは女子サッカー全ての試合が夕方、夜のナイトゲームで行われるということが既に決められております。
そこで、国によっては、恐らく天然芝のグラウンドのほうと同じような照明の環境をつくってほしい、つまり同じキックオフ時間に合わせて、天然芝で練習試合をしたり、練習をしたりということを求めてくる可能性がかなり高いのではないかというふうに思っておりまして、この点については、残念ながら現状では、今年度から始めて、ナイター照明を陸上競技場に取り付けるというのは現実的ではありませんので、この点が鴨川にとってはウイークポイントになってしまう可能性はあるかなと思います。
なお、先ほど鈴木補佐のほうから説明申し上げたニュージーランド代表をもう一つのコールとして選定しておりますのは、これは失礼な言い方になってしまうかもしれないんですが、恐らくヨーロッパのチームは、私も実際誘致活動の感覚としては、かなり予算が潤沢で、いわゆる予算的なものを余り求めてこないんですね。どちらかというところ、競技環境、視覚環境の環境面がすばらしいほうを選ぶというところがありますので、本命としてはドイツなんですけれども、ドイツはご承知のとおり、世界でもナンバー1、ナンバー2の女子サッカーの国ですので、しかも予算も潤沢というふうに伺っておりますので、恐らくウイークポイントが競技者にとっては、鴨川はごめんなさいというふうになる可能性がある。そうしますと、ニュージーランドですとか、第2、第3の候補として、ちょっと手当てをしておいたほうが誘致においてはいいんじゃないかと考えております。
実際、天然芝でナイター照明を持っているグラウンドで事前合宿等で使えるところは、実は日本ではほぼこの時期少ないと言われておりまして、国によってはそこを妥協して合宿をせざるを得ないという状況は当然生まれてきますので、そこら辺も視野に入れつつ、誘致活動を展開する必要があるのではないかというふうに思っております。

続いて、宿泊施設に関しては、鴨川はもともと宿泊施設6,000人、6,000室ですか、収容人数を誇ると言われてきたんですけれども、残念ながら海外の代表チームが宿泊するとなりますと、これは環境的に非常に厳しいものがございまして、ほとんどが観光ホテルということで、和室であったり、洋室のシングルをある程度数備えているホテルさんというのはなかなか少ないというのが現状であります。それと、観光においては、7、8月は宿泊料が高騰する季節でもありまして、宿泊業の皆様方にとっては常連さんのお客さんを断ってまで合宿を誘致受け入れをするということのほうで経営的なリスクが高いと判断されるというのもいたし方ない部分でもありますので、実は宿泊施設の選定に関しては、今私どものほうでも思案しているところでございます。

皆さん気になるのは、どれだけの費用負担をするのかということなんですが、原則的に選手団の渡航費、滞在費はその国の協会ですとか、そのチームが負担しますので、そういったところの鴨川市の負担は無いんですけれども、ただし誘致の部分においては、ある程度、例えば新競技会場なら、鴨川までの行き来ですとか、あとはプラスアルファのもてなしの部分にもなりますが、そういったところをある程度考えてあげる必要があるのかなというふうには思っておりますが、例えば宿泊費用、交通費の全額を持てということにはなりませんので、この点をご安心をいただければいいんじゃないかなと思います。

そういった課題を踏まえて、今ドイツ、オランダサイドのほうのアプローチとしては、とにかく、芝生は洋芝化になるという前提で、鴨川市の現状で果たして宜しいですかという最終的なアンサーをいただこうというふうに今のところ思っております。それで万が一、それだと厳しいですよということであれば、先ほど言ったように、次の第2、第3のほうにアプローチをかけていくというような流れで考えておりますので、状況報告になりますけれども、そういった流れとなっています。以上です。

○庄司委員 ありがとうございます。あわせて、私は東京オリパラ対策推進本部のほうのメンバーなんですけれども、パラリンピックの状況、実際に誘致活動のほうを展開していただきまして、車いすバスケットであるとか、あるいは車いすの陸上の競技、マラソンであるとかというほうは、実際、こうして展開していただいているので、そちらのほうの状況も教えていただきたいと思います。

○事務局 それではパラリンピックのほうの関係です。今まで鴨川市は基本的には国内の全日本代表ということで、パラリンピックにつきましても車いすバスケットを全日本、また陸上、あるいはブラインドサッカー、そういったパラ種目についても国内を対象として誘致しておりました。

ただし、2020年になりますと、やはり国内チームは国内にあるジムに貸して、試合会場でなるべく練習あるいは合宿を組みたい、そういった意向があるというのは誘致の段階では聞いておりました。従いまして、今のところ車いすバスケットを初めとしたパラリンピック種目に関しましては、国内チームあるいは国内のチーム誘致というのは考えておりません。では、なぜ今までそういったことをやったのかということをおしめると、やはり先ほどもご説明にありましており、鴨川市がユニバーサルデザ

イン、ユニバーサルスポーツに力を入れていくんだと、オリンピック・パラリンピックを契機にして、そういったかわりを持っていくんだというような趣旨から、鴨川市の将来を考えましても、オリンピックともそのような形で進めていけたらと思っております。

結果を申しますと、来年オリンピック事前合宿というのは今のところ国内、国外とも予定は立っていないという段階でございます。以上です。

- 委員長 何かありますでしょうか。無ければ、議件の（２）、平成30年度オリパラ対策推進本部決算報告について、事務局の説明を求めます。

（事務局 説明）

- 委員長 続きまして、監査報告を菅原明善監事からお願いいたします。

（監査報告）

- 委員長 はい。ありがとうございます。ただ今の事務局からの説明につきまして、ご質問がございましたら、お願いしたいと思います。

- 庄司委員 一番下のキャンプ誘致委託料500万円なんですけれども、800万円という全体予算規模の中での500万円ですけど、もう少し詳細な説明をいただけないかと思いますが、委託料というお話でございましたけれども、今の説明の中には渡航費用というのも触れられておりましたので、実際に委託された費用が幾らであって、どういう内容であったか、また、委託料以外の経費がどうであったかというご説明をいただきたいと思います。

- 委員長 事務局のほうからお願いします。

- 事務局 委託費用が497万8,800円、委託会社で、株式会社のモアスマイルズという会社に委託しております。この会社ですが、サッカー関係者やサッカー関係の仕事に造詣の深い、浦和レッズの関係者とのつながりがあるので、その関係で委託のほうをさせていただいております。渡航費につきましては、この委託費の中に含まれております。全部、交渉とかも含めての金額でございます。

- 庄司委員 委託内容は。

- 事務局 委託の内容につきましては、こちらの報告書の誘致活動の報告書にもございましたとおり、本市の状況の調査と相手方の要望というか、ヨーロッパのほうのチームの状況の調査、あとはプレゼンテーションと、あと今後の誘致に係る課題等の答申をつくっていただくというところございました。

○庄司委員 今のお話ですと、報告ということですから、報告書が上がってきているかと思うので、会議終了後で結構ですが、それを拝見することはできますか。

○事務局 はい、事務局のほうにございますので、できます。

○庄司委員 ありがとうございます。

○委員長 他にありますか。どうぞ。

○鈴木委員 これだけ金額を出して誘致活動をするわけですがけれども、また、してきたわけですがけれども、課題の克服という部分については、どのような展望が今現在開けているんでしょうか。結局、誘致活動しました、課題克服できないで、やらないことにいたしましたということではちょっとあれなんで、その辺のところを教えていただきますとありがたいんですが。

○事務局 先ほど申し上げたところと重複してしまうのですが、この誘致活動、女子サッカーに限って言いますと、見えてきたのは、一つは競技施設の、特にナイター照明の問題があります。これに関しましては、現実的に今から予算を、例えば行政で、私は行政の立場でないんで、もちろん違う立場として聞いていただきたいんですがけれども、行政で予算を取っている状況にナイター照明をつけるというのは非常に現実的ではないですし、また、このナイター照明の課題の部分に関しては、仮設でもできないかというのを模索しているのですが、サッカーというところの高度から照射しないといけないという部分もありまして、仮設でもかなり厳しいのかなというふうに私は思っております。

なので、先ほど申し上げたように、現状の人工芝、ナイター照明付きの人工芝のサッカー場と、ナイター照明は無いけれども、洋芝化される陸上競技場でお越しいただける国、ドイツが来てくれると一番それにこしたことは無いんですが、仮にドイツが不調になりそうな場合は、第2、第3の候補を、それでニュージーランドというところを見ているんですが、オランダ代表ですとか、そういったところを何とかして、誘致を出し続けたいと考えております。

これは、今、オルカ鴨川FCも、今女子サッカーが盛り上がってきている鴨川、もっと言えば構想部分においては、そのときで終わらない、一つのきっかけというんですか、さらに盛り上げるきっかけにもなるんじゃないかと期待しておるところであります。

もう一つは、鈴木さんからのご質問で大変恐縮なんですけれども、宿泊施設を考えなければならない。そういうところなんです。なので、その部分については、逆にご協力をしていただく、宿泊業の方々と協議をしていくこととなろうかと思えます。

○鈴木委員 私も旅館組合長をやっていたことがございまして、旅館の経営者でもある

ということなんですけれども、7月、8月と言うと、非常に高くなるんですね。先ほどドイツは非常にバジェットが豊かにあると。だから施設云々に関しては非常に厳しいことを言うてくるだろうと。逆に言えば、バジェットが小さいところは余り厳しいことを言うてこないんじゃないかということなんです、そのバジェットの小さいところでは宿泊施設にしても厳しいんじゃないかなという部分が矛盾してございまして、その辺の考えを踏襲して、しっかりと議論していかないと、このかけていくお金がパアになっちゃうと思って心配しているところでございます。

- 事務局 その点につきましては、予算との兼ね合いというのものもあるんですけれども、例えばニュージーランド代表が予算が潤沢にあるかというのは、それはそうではない部分ももちろん出てくるという場合もあります。

代表チームが来ますので、ですから、環境を最優先で、絶対この環境でないと、うちは金メダルを取るためにだめだよという国のレベルになってしまうと、ドイツなんかかなり厳しい、あとはアメリカですとか。

女子サッカーで言いますと、もしかするとニュージーランドですとかは、予算があつてのキャンプはできないけど、他のドイツとか強豪国にいいところ全部取られちゃって、ある程度首都圏に近くて、こういう鴨川という環境、しかも人工芝だったらナイター照明もあるよということであれば、環境も大丈夫だよというところがありますので、これから、ちょうどワールドカップ中ですので、かえって今アプローチしてしまうと、逆に場面を読めない地域としてみなされしまう可能性がありますので、ワールドカップの結果、7月上旬には優勝国が決まりますので、その結果を踏まえてアプローチをかけていくというふうには思っております。

ただ、長い目で見たときに、実はスポーツ合宿に特化し開業した宿泊施設というのは、鈴木さんもよくご存じだと思うのですけれども、正直なかなか厳しいのがこの地域の現状でして、これは今回のオリンピックだけではなく、今後のスポーツ合宿誘致を考えたときに、旅館の皆さん、観光業の皆さん、本当にどうしていくのかというのは長い目で協議しなければいけないんじゃないかなと、課題が見えたかなと思っております。

ですから、例えばスポーツに対応した、相撲の宿泊研修施設みたいなものを新たに設置したほうがいいとか、あるいはどこかのホテル、旅館がそれを私たちがある程度やりますよと言ってくれるのか、そこら辺もかなり考えていかなければいけないかなという気がしております。

- 委員長 その他何かありますでしょうか。

- 江川委員 江川といいます。私、出身というか、住んでいるところが木更津市なんです。そんなことで、去年の暮れからか、木更津市も何とか事前合宿のことをやりたい、知恵を貸してくれということで、ドライバーということでずっと一緒にやっております。

今ずっと話を聞いておったのですが、いろんな悩みがあるからという答えです。参

考になることを言いますと、まず事前合宿をするために、どういうことをやるか、それが将来の子どもたちのためになるか、あるいは一般の方々のためになるか、そういうことがあって、人気があるスポーツにしようということで、私、バスケットをやっているのですが、残念ながらオリンピックにバスケットは認められておりませんが、多分いけるんでしょうけども、アフリカのナイジェリアに声をかけました。

多分、いっぱいいらっしゃるから、生活環境は、違うかとかと思いますが、ナイジェリアは喜んで来てくれました。まだ来てないんですが、日本の大使館と、向こうのスポーツ大臣に会って、話をしました。木更津市から言われたのは、くれぐれも、今、照明の予算なんかありませんからと、宿泊助成もありますけれども、その辺をきちんと説明して、もめないようにしてくださいと、わかりましたと、とりあえず任せてくださいとやったんですが、やはり照明というのは、これからもめるかもしれません。

ただ、たまたま昨日、陸上競技場がオープンしまして、セレモニーがありました。市長がいたんで、照明がつかないんですかと、でも、この土地は実は自衛隊の土地で、高さに制限がある。そういうような法律がなっていないので、だから難しいなということで、照明は恐らくつかないでとなるでしょうと。

話がちょっとずれますが、オリパラのほうは車いすバスケットの話もありました。それで、パラの車いすバスケット、まず、木更津へ来て、我々が提供する宿泊所、そして場所を見てください、食事を食べてください、こういうことをやりました。その結果、ああそうかと、泊まるホテルのベッドはどうか、それから、体育館の床はどうか、それから照明はどうかと、ただ、照明にはつきませんと言ったところ、それでも大丈夫だと、向こうは、電気はしょっちゅう使えない、水も十分ではないといわれました。

ただ、食事はということで、待ったと言われました。宗教の関係がありましたけれども、当然病院に行けば、宗教に応じていない食事は幾らでもありますと、そう言われました。このような中で、料理について、ホテルオークラ、ワシントンホテルで、審査会を行い、食事についてはオーケーをもらいました。

それから、暑いのはどうするの、いや、日本も実は暑い。7月開会式のころは暑いでしょうと。実は日本では高校生のスポーツが盛んで、インターハイとかやるんだと。そのときにナイジェリアも暑いでしょうと。クーラーがきいているんですけど、普段はクーラーなんか、そんなの無いと。自然の熱を、戸を開けて風通しだと。

じゃあ、サッカー強いけれども、サッカー場の観覧席はあるんだと。4万とか入れるところはあるんですけど、設備は無いと。どこで自分たちの応援団を入れるんですかと。土手に座って見てもらうということでした。

それから、ナイジェリアは、陸上が強い。サッカーも強い。男子のバスケットは日本より強い。メダルも狙っている。国内では空気は同じだと。だから、それは大丈夫ですと。夏の暑いときに日本は扇風機を体育館に入れて、実際やっておりますね、インターハイとかね。それでは大丈夫じゃないでしょうけども、そういうことを前もって、先ほど国なり県なりある程度予算を取っているでしょうから、よく理解しておいてもらったほうがいいかなと思います。

それから、女子のサッカーのワールドカップをやっています。オリンピック代表に

なれば、日本に来ますが、バスケットは男子がアフリカが１位になっていました、ナイジェリアは。前回のオリンピックには20位ぐらい、日本は45位のレベルなんですね。20位の地区を呼んでいただく。そこに私は恩返しをしたいと。ここが大事なところがあります。よかったら練習オープンでとか、こういうことを言うつもりであります。そういうふうにしてカラーをつくってやって、恩返しをすればいいんじゃないかと思えます。私は今木更津市でそんなことを考えながらやっています。

先ほど鈴木さんが言われた。いろいろ課題がある。いろいろやりたいことが出ている。私が言いたいのは、これがロードレースだけで終わりですか、鴨川市さん、女子のサッカーだけで終わりですか、それを何とか将来のまちづくりに続けていこうと考えないんですか。亀田病院という立派なところがある。医療関係で、例えば医療機器の工場をどうして誘致しないんですか、また、私が言いたいのは、病院、それに代える、ドクタープラスを補助する方が全然少ない。こういう人たちのアジア式のトレーニングセンターとか、高校生をここへ来なさい、トレーニングしなさい、あるいはアジアでも、東南アジアにいっぱいいますけど、こういう人たちの就職場所として鴨川は最高だと、このようなことを考えたほうがよろしいかと思えます。

- 委員長 何かございますか。無ければ、議件の（３）、鴨川版地域スポーツコミッションについて、事務局の説明を求めます。

（事務局 説明）

- 委員長 ただ今の事務局からの説明につきまして、ご質問がございましたら、お願いしたいと思います。

（特にありませんの声あり）

- 委員長 何かございますか。無ければ、議件の（４）、令和元年度鴨川版地域スポーツコミッションの事業について、事務局の説明を求めます。

（事務局 説明）

- 委員長 ただ今の事務局からの説明につきまして、ご質問がございましたら、お願いしたいと思います。

- 庄司委員 ありがとうございます。最後に人材確保・育成として地域団体との連携とございます。これにつきまして、委員長の花山さん、体育協会さんであるとか、あるいは鴨川市で展開しておりますオーシャンのスポーツクラブですか、そのあたりとはどんなふうに連携されているのか、あるいはこのネットのクラブがありましたら、教えていただきたいと思います。

- 事務局 地域の団体さんにおきましては、まず一つは、体育協会としては、ご存じのとおり地域の委員長さんにつめていただいたおりますので、もちろん連携しながら、実は視察先に掛川を選んだ理由は、体育協会さんが主体であるということで、私たちに非常に示唆を与えてくれるのではないかとということで、視察をさせていただいて、できれば体育協会の中にいろんな種目の団体さんが実は所属をされておりますので、私としては、私たちとしてはそことしっかり連携してやっていきたいなと考えております。

あと、オーシャンスポーツクラブさん、掛川は総合型スポーツクラブをやられていて、そこでの示唆を与えてくれるという期待がありますので、私たちとしては、ばらばらでやるのではなくて、しっかり連携しながら、オルカ鴨川ＦＣさんですとか、地域の少年団ですとか、そういったスポーツの振興の部分におきましては、先駆でやられている皆さんですので、そこら辺はしっかり連携して、プロジェクトチームに、物によっては入っていただくですとか、あるいは指定管理の部分も今後いろんな流れになると思いますが、そういうところも一緒になって考えていかなければいけないんじゃないかなと、ちょっと抽象的な答えになっちゃいましたけれども、密に影響する考えでございます。

- 庄司委員 ありがとうございます。

- 委員長 体育協会長の名前が出たんで、委員長なんですけれども、説明の仕方が、体育協会としては全部まだ決まってませんので、この会議に出てまして、私など、ほぼ委員なりに説明していかなければいけない、こちら先走っていったら、私も後から追いかけている状況なんで、よろしくお願いします。他にありませんか。

- 鈴木委員 一つ伺いたいんですが、サッカーということになると、ナイター設備が必要だし、芝が必要ですし、人工芝が必要だと、こうなってきますね。現在鴨川が保有していく資源、資産の中で対応できるものに目を向けていこうという考え方は無いでしょうか。

- 事務局 それを含めいろいろ考えた結果、サッカーということになったわけなんです、ご承知のとおり、オルカ鴨川ＦＣが１部に上がりそうな勢い、そういったものを考えた中で、今後につながる、接続と言ってはなんですが、オルカ鴨川ＦＣを核とした地域振興策、これを鴨川が出すべき一つのものではないかと考えております。それにつきましては、女子サッカーが来る、来ない、そういったことによりかなりプラスになるイメージを持っております。例えば先ほど来話のあるドイツのサッカーチームが来た場合に、オルカ鴨川ＦＣとの交流があり、その数年後にはオルカ鴨川ＦＣにドイツの選手が入る、そういった中で、オルカ鴨川ＦＣ自体にも相乗効果が出るのではないかと期待しております。あとは、鴨川ではご承知のとおり野球場ですとか、文化体育館、そういったものがあるんですが、やはりオリンピック種目、特に強いと言われるような種目を誘致する場合には、それなりの今回と同じような照明施設が必要であっ

たりとか、それらも施設への整備が必要になってくると考えられます。

そういったことを考えて、鴨川としては将来につながる一番いい種目は何かというところで、女子サッカーという判断をさせていただいておるところでございます。しかしながら来年に控えまして、先ほど岡野さんから話がありましたとおり、いろいろな国からこれを受けられるかというような打診は今後来ることは見込まれます。その都度それを受け入れて判断するには、鴨川にとってどうつながっていくか、その辺をしっかりと見極めながら進めていきたいと思っております。以上です。

- 庄司委員 今の質問を伺っていて思ったんですけれども、確かにトップスポーツを誘致していくというところでは、それはサッカーを否定するものではないんですけれども、もう一つの鴨川の文化、あるいは継承していくという意味から見ると、サッカーとはもう一つ違って、鴨川でやられているものにもう少し広く目を向けてもいいんじゃないかというように私は感じたんですね。例えば先日フラワーフェスティバルがありました。フラダンスがスポーツかというのは意見があるかと思いますが、社交ダンスはスポーツですし、まして草刈りはスポーツだというスタンスに立てば、フラダンスは十分に年配者まで巻き込んだ鴨川に根付きつつある大きなスポーツ文化の一つだというふうに捉えることができると思います。同様に、自宅の広いスペースを使ってヨガなどで大勢の住民を巻き込んでいるというような活動も見受けられている中で、これに限定することではなく広い視野を持って大勢の方を鴨川に招き入れる、経済効果につなげていくという視点を外さないでもらいたなというようには感じましたので、すみません、答弁は結構です。

- 委員長 何かございますか。無ければ、議件の（５）、令和元年度東京オリ・パラ鴨川市対策推進本部予算について、事務局の説明を求めます。

（事務局 説明）

- 委員長 ただ今の事務局からの説明につきまして、ご質問がございましたら、お願いしたいと思います。

（特にありませんの声あり）

- 委員長 他に何かございますか。無ければ、（６）、その他 について、事務局からありますか。

- 事務局 特にございません。

- 委員長 他に無ければ、議事を終了いたします。スムーズな議事の進行にご協力いただき、ありがとうございました。

6．意見交換

- 司会 委員長、ありがとうございました。最後に意見交換に入ります。委員の皆様から普段起きていること、ご要望ですとか、何でも構いませんので、スポーツを生かした地域振興について、この際ですので、ご意見がありましたら、お願いいたします。
- 委員長 先ほど会議の中で出ましたけれども、体育協会を代表いたしまして、こちらのほうにも多目的施設という格好で、文化、体育両方併せ持った施設の整備計画が、今頓挫している状態、その後に、こういうスポーツでまちおこしという形で、私としては非常に疑問に思っていますけれども、全部が全部予算があってやるようなことなので、意見を控えていますけれども、何とか事務局のほうでそのまま適切という格好でやれるように控えておいてもらいたいなと思います。以上です。
- 司会 他にございますか。
- 江川委員 一つ教えてほしいんですが、入院したんですけれども、今ありました影響、近い将来、例えば的を絞って鴨川市のスポーツ施設、それから当然亀田病院も含め、あらゆる国から障害者専用の、ナショナル体育センターのようなものをつくる計画はあるのか、そういうのはどうですか。
いわゆる健常者を含めたナショナル教育センター、西側しか無いですが、今は、それを鴨川のここにつくるというお考えはおありですか。
- 事務局 実際にはナショナルトレーニングセンターの構想というのが実際にございました。何度かこちらのほうに行ってお話もさせていただきました。
- 江川委員 それはいつのことですか。
- 事務局 数年前、そのとき、そもそもナショナルトレーニングセンターというのは、自治体が設置するものではなく、国がそれなりのものを用意して、そこでなくては代表の練習ができないような、そういった目的の中で成立するというお話でした。
実際に鴨川にこれだけの施設があって、どうなんですかとお話を聞いたときには、それは無理な話だというお答えを国のほうからいただいた経緯がございます。
それなりに日本代表、国際試合を行うというような条件が整った会場ではなくては、そもそも対象にならないような話もお聞きしますので、その段階で鴨川市は外れるのかなというように聞いてございます。
- 江川委員 今ちょっと思い出したのですけれども、数年前というのは私と一緒に行って、強化部長と会って、それを鴨川というところで同じものをつくりたい、そういう話があった。いいのかと言ったら、だめだと、こう言われた記憶があります。ナショナルトレーニングセンターに行くと、将来日本代表になる選手がオリンピックの選手

と一緒に食事ができて、話ができて、トレーニングができるんだというところのほう
が、お客さんの入りが非常にいいというのがわかったんですね。

- 鈴木委員 関連なんですけれども、我々多目的施設検討委員会というのを、花山さん
も含めてやっていたわけなんですけれども、そのときにバスケットボールのコートを3面
つくろうじゃないかという計画だったんです。それはどうしてかということ、日本で一
番競技人口が多いからなんだと。だからしっかりとしたリーグが組めるようなものを
つくっていきましょうということを進めていたんですね。

今のお話を伺って、やはりそういうビジョンが我々いろいろスタディーしてきた後
に、全部それが御破算になっちゃうというのはもったいないことだなと。やはりそこ
で学んだことを生かすということを考えたらいかがかなというふうに思っています。

- 江川委員 笑われるかもしれませんが、例えば大学のソフトボール部、ここに合宿を
つくろうと聞いてます。要は関東地区の東京都内の金持ちのお嬢さん、学習院、慶
応、上智、清泉、フェリス、そういうところに女学生いっぱいいるんです。そうい
う子たちに、やっぱりスポーツやって、合宿所に学生を残して、鴨川は危なくない
ですか、それを本人は行きたがるんですが、父兄がきちんと、行っても大丈夫なん
だというところでないと出さない。そういう学校に安全・安心をアピールするのも
大事だと考えます。

実は私は明治大学なんですけど、明治大学が硬式野球で優勝しました。この前テレ
ビで見たのですが、チアガールがいるんです。あの子たちを連れて鴨川で合宿をや
って、そのときに6大学全部来てくれる。そういう話をしようと思っています。

- 佐藤委員 一つだけいいですか。時間があるので先にいいですか。健常者も楽しめる
パラスポーツと書いてあるんですけども、これが一番のパラスポーツの魅力だと思
っているんですけども、子ども向けスポーツプログラムとかそういうのと絡めて、
交流ができていったら、障害者に対してもすごく理解が深まると思うので、ちょっと
無理やりな意見かもしれないですけど、駐車場とか優先トイレとかも結構限られた数
しか無いんで、そういうところのマナーというかモラルというかが広まれば、多分そ
ういうのが無いまちにパラスポーツの競技が来ないと思うので、広まったらいいなと
いうふうに思っているんで、何かそういう交流する場をもっとつくってほしいなと思
います。

- 司会 貴重なご意見ありがとうございます。できましたら、これからパラスポーツに
力を入れていく中で様々なご意見をいただき、できれば一緒に企画ですとか、そうい
ったものの話し合いをしていく中に参加していただき、ご意見をいただければと思
っております。当然そういった機会が今後必要になってくると思われますので、引き続
きご協力いただけたらと思います。

- 大内委員 亀田病院のスポーツ医学科の大内と申します。先ほどの岡野さんのプレゼ
ンのウエルカモ教室というのはすばらしい取り組みだなと思います。例えば、先ほど

違う分野で、どの場でコラボしているんですとか的な話が出たと思うのですが、我々の院内リハとかで同じような教室がオルカ鴨川FCでもやっていると思うのですけれども、そこら辺がコラボしてやったほうが効率という意味でもいいかなと思いました。

私、医療的な視点でなんですけれども、鴨川と亀田ですけれども、高気圧酸素とかPRBとか、リハビリの施設が揃っている日本でも数少ない土地で、ロッテであったり、楽天であったり、そのためだけに来ますし、ラグビーの女子の代表もそうでしたけれども、オリンピックの直前にコンディショニングしていかなければいけないその時期って、すごくそういう部分が大事になってくるので、そういうのを売りにしたらいいかなと思ったのと、先ほど車いす用のお手洗いの話も出たのですけれども、どうせお手洗いの整備を今後するのであれば、国際的な大会とかになってくると、僕もアンチ・ドーピング委員というのをやっていますが、ドーピング検査は狭いトイレだとできないんです。

どうせつくるんだったら、しっかり広いお手洗いで、隣にはちょっとした小さな空間というか、部屋でいいんですけれども、事務手続きができるようにするとか、先々を見据えた予算の使い方等をしていていただいたらいいのかなというふうに思いました。ちょっと個人的な希望です。

- 委員長 スポーツ、こちらのほうは安房の地域というのは、柔道、剣道、いわゆる日本の和を中心にしたようなもので、いまだに強い地域になっていますので、そのあたりも考えて、日本人らしいものをつくってってもらいたいなと、それに伴奏的なものも必要かなと思います。私自身もスポーツにつきまして、この鴨川の中の自然の中で育ってきていますから、この鴨川の自然のよさがわからない、忘れちゃっていると思うんです。

まず、今一番近いところだと、市原市の体育協会が法人になっていますけれども、その理事長が私と同期で、宮崎県の出なんです。サッカーをやっていたんです。鴨川の視点をものすごくほめる。体育施設じゃなくて、スポーツに秀でているという形になりますと。動物に近づくんだと思うんで、それが自然のよさを自分の身体に受け付けるんじゃないかなと思います。

嶺岡山系、清澄山系、これがものすごく自然に癒されているだろうと思います。あとは、大学、東洋大、城西国際と早稲田、千葉大学、その中で箱根駅伝だとか、そういう中で今日本のマラソン大会最高記録を持っていますこの3校学部は鴨川の中を走ってますので、逆にそういうものを利用していったほうが、全く自然の中走っているんですから、その一節をくっつけていけば、もっと生きるんだだろうと思います。先ほどから出ています医療が基本的に整っているまちですから、鴨川の場合は、そういうものを入れてPRしてってもらい、まちづくりに利用してってもらいというのは一番重要じゃないかなと、私は常々思っているわけで、一言、言わせてもらいました。

- 江川委員 大内先生、どういう。

- 大内委員 僕は今ジャルダールのほうの仕事をしています。あと、亀田の、例えば我々

スポーツ医学科ですと、医師 5 人のうち 3 人がオリパラのポリクリニックという選手村の病院がつくる、整形外科の担当で、日本で一番多く、リハもうちから 3 人ポリクリのリハを担当しますので、かなりオリンピックに力を入れている施設ではあるんです。組織委員会の医療部門のアドバイザーというような形で我々もかかわらせていただいたりしているので、ぜひ鴨川の、それは晴海での話ですけども、選手村ですので、この土地でも何かオリパラ、さっきから出ているそれが盛り上がってほしいというのは、医療面からもいつも願っているところです。

- 江川委員 リハビリテーションセンターにも理学療法士、いろんな担当の方がいらっしゃる。若いんです。リハビリの免許を持たれた、資格を持った方がいっぱいいらっしゃる、やっぱり運動をやっていた分だけ、運動のリハビリがちょっと違うんですね。よく筋肉だ、神経だ、これは違う、リハビリの専門の方が、やがては日本にいっぱいできるだろうと、こういうような方が子どもたちの教育の中に入れてもらおうと助かるなと思っているんです。英語も教えてもらってね。

7. 閉 会

- 司会 ありがとうございます。開会から 2 時間がたちましたので、無ければこの辺で終了させていただきたいと思います。

長時間にわたりまして、お忙しいところご審議いただきまして、ありがとうございました。以上をもちまして本日の会議を終了させていただきます。

(15 : 30) 終了

鴨川市附属機関等の会議の公開に関する実施要領第 7 条第 3 項の規定により、会議録の確認をしました。

令和元年 7 月 17 日

会議録署名人 氏名 清水 宣雄